

# 感染症の登園基準

きよし幼稚園

		病名					
第1種		エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎	ジフテリア 南米出血熱 重症急性呼吸器症候群 鳥インフルエンザ 新型インフルエンザ	(第3種) 腸チフス パラチフス 腸管出血性大腸菌感染症 コレラ 細菌性赤痢	第1種の感染症に罹った者については治癒するまで	原則入院治療するまで 感染源となる期間は 出席停止となります。 出席していただきます。	
		病名	潜伏期間	感染可能期間	主な症状	停止期間	出席停止となります 医師の診断を受け、 提出していただきます。 治療証明書を 提出していただきます。
第2種		1 インフルエンザ (様疾患)	1~2日	感染後約10日	発熱、全身倦怠、筋肉痛、 鼻カタル、咽頭痛、咳	発症後5日を経過し、かつ、解熱した後 2日(幼稚園児については3日)を経過 するまで	
	2 百日咳	6~15日	感染後約3週	発作性咳の長期反復、持続	特有の咳が消失するまで、又は5日 間の適正な抗菌性物質製剤による 治療が終了するまで		
	3 はしか(麻疹)	10~12日	発疹出現の前後 4~5日	上気道のカタル、発熱、 粘膜疹コプリック斑	解熱した後、3日を経過するまで		
	4 おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	14~24日	明らかな症状を 示す7日前から その後9日続く	発熱、耳下腺、舌下腺、顎下腺の 腫脹及び圧痛	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が 発現した後5日を経過し、かつ、全身状 態が良好になるまで		
	5 三日はしか(風疹)	14~21日	発疹出現の前後 7日間	種々の発疹、軽熱、リンパ腺腫大	発疹が消失するまで		
	6 水ぼうそう(水痘)	11~20日	水痘発現前 2~後6日	軽熱、被覆部に発疹、斑点丘疹状 →水疱→顆粒状痂皮	すべての発疹が、痂皮化するまで		
	7 プール熱(咽頭結膜熱) (アデノウイルス)	5~6日	潜伏期後半~ 発症後約5日間	発熱、全身症状、 咽頭炎と結膜炎の合併症	主要症状が消滅した後2日を 経過するまで		
	8 結核	2年以内	喀痰の塗抹検査 陽生の間	初期無症状 倦怠感、微熱、寝汗、咳等	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	9 髄膜炎菌性髄膜炎	1~10日	有効な治療をして 24時経過するまで	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐。 劇症型感染症	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	10 流行性角結膜炎	1週間以上	発病後約2週間	軽熱、頭痛、全身倦怠、結膜の炎症 、眼瞼浮腫、目やに	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	11 急性出血性結膜炎	1~2日	発病後約4日	流涙、結膜充血、眼瞼浮腫、滲出液	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	12 溶連菌感染症	2~4日	潜伏期後半~ 発症後約7日間	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌、 頸部リンパ節炎、全身に発疹	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	13 マイコプラズマ肺炎 (うつる肺炎)	10~24日		咳、発熱、呼吸困難(重症の場合)	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	14 ヘルパンギーナ	2~7日		高熱、咽頭痛、咽頭に水疱	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	15 手足口病	2~7日	水疱消滅まで	感冒様症状、 手足口に赤斑→水疱	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	16 りんご病(伝染性紅斑)	17~18日	14~20日	顔面赤斑とくに頬部の赤斑性発疹	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	17 感染性胃腸炎 (小型球形ウイルス・SRSV)	1~3日		発熱、腹痛、下痢	医師が感染の恐れがないと 認めるまで		
	18 突発性発疹	約10日		高熱、3日後に全身に発疹	医師の許可があれば		
	19 ヘルペス性菌肉口内炎 (単純ヘルペス感染症)	2日~2週間		口内炎症	医師の許可があれば		
	20 とびひ (伝染性膿痂疹・皮膚化膿症)	2~10日	水疱消滅まで	主として豆つぶ大の水疱自覚症状 あまりなし(プールは厳禁)	医師の許可があれば		
	21 水いぼ(伝染性軟属腫)	14~50日		球状のいぼ	医師の許可があれば		
	22 アタマジラミ	1ヶ月程	10日程	頭がかゆい	医師の許可があれば		

感染症にかかった場合は、必ず幼稚園にご報告ください。  
又、登園する際には第一種と第二種そして第三種の一部は治療証明書を必ず提出して下さい。

# 治癒証明書

きよし幼稚園

園児名	
病名	
期間	平成 年 月 日から 月 日まで
病院・医院名&医師名	
印	